

蜷川幸雄

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

YUKIO NINAGAWA × RAN OTORI

公開対談シリーズ第18回

NINAGAWA 千の目

鳳蘭

女優



清水邦夫作『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』で、少女歌劇団の男役を演じた鳳蘭さん。宝塚時代の思い出そのもののような舞台を蜷川幸雄演出で再現され、万感の思いを込めての舞台でした。宝塚で培った演技術、この国で女優として生きることまでお話はひろがりました。

蜷川(以降N) 鳳さんと『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』という芝居をしています。こんなに素敵な女優さんに会うのは久しぶりです。 Broadwayの女優と互角に勝負できる女優が日本にもいるのです。堂々として、格好よくて美しく、魅力的です。鳳さんは「戦前の男役スターは越路吹雪さんで、戦後は私よ!」と自分でおっしゃっていましたね。

鳳(以下O) 誰も言ってくれないから自分で言っているのですよ(笑い)。

N 少女歌劇を引退してもう一度蘇ってくるスターを演じていた

だいていますが、おもしろいのですか?

O すごくおもしろいです。洋物の和物芝居というか。

N 『ロミオとジュリエット』が劇中劇に出てきますが。

O 演じていてすごく気持ちがいいです。私はシェイクスピアに向いているのかしら。

N 向いている、いいと思う。古典的な言葉も自在に操るから、「うまいなあ」と。

O 宝塚で積み重ねた、封印された引き出しをいっぱい出せたので、すごくうれしいです。

Broadwayの女優と互角に勝負できる女優が日本にもいるのです。堂々として、格好よくて美しく、魅力的です。(蜷川幸雄)

少女歌劇の思い出が甦る稽古場

N スターとしての自信もあり、堂々としているね。

O これが気持ちいいのですよ。今回久しぶりに「ごきげんよう皆さん!」と言ったら、宝塚の大階段で下級生たちが見上げている場面がありありと甦って、100%その気持ちになれます。全部思い当たることなので、本を読んだその日から泣いたし、散り散りになった30人の劇団員が集まる場面はいまだに稽古場で泣いています。それぐらい全部経験したことが台本になっています。清水先生は何で少女歌劇の心理を知っているのですか?

N いま72歳の清水邦夫さんですが、とてもいい台本です。隅々まで女性のいろいろな気持ち、再会する不安や自負がよく分かっている。ディテールがすごくいい。

O セリフがきれいですよね。清水先生は、前世少女歌劇にいたのではないかと思うくらいです。

N 鳳さんの時代でライバルはいたのですか?

O ライバルは、襟名由梨、汀夏子、安奈淳さんで、四大スターと言われました。

女優として、大人として、この国で生きること

N 鳳さんみたいに頭のいい女優さんばかりいると本当にいいのですけれど。「この人にちゃんとしてあげよう」とか、「次の舞台はもっといい役を用意してあげよう」と思わせるのは、人間の魅力や素直さです。演劇って人と人がコミュニケーションし合って動いていくのですから。芝居の中で鳳さんが、子どもの名を呼ぶところで、「親が娘を呼ぶ言い方、声だなあ」と思って。ニュアンスがいいんだよね、いろいろな経験が生きている。

O 子どもがいると自由に羽ばたけないではないですか。その意味で私は子どもがいてよかった。どこかに羽ばたいて行ったら帰ってこないタイプですから。

N 逸脱するところが鳳さんで(笑い)。逸脱が人間の幅を上げてくれたり、稽古場を自由な感じにしてくれています。本番は鳳さんが出てくるだけで空気が変わって、格好いいですよ。お客さんには鳳さんを見る喜びがあるので、堂々とたっぶりやってくれと。今度の舞台は年配の女優さんを中心に探しました。

O 平均年齢50歳ぐらいではないですか。

N ヨーロッパの女優さんはある年齢を重ねてもいい役がたくさんありますが、日本のように子ども中心の国はテーマの取り方が幼いですよね。この国で成熟し大人になっていくというのはすごく大変なこと。鳳さんは正しく生き延びています。舞台や映像も含めて強烈に演じてみたい願望ってありますか?

O 強烈にやってみたいのは『サンセット大通り』です。年老いた女



「雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた」(2009年5月Bunkamuraシアターコクーン) © 谷古正彦

優がいつまで経っても自分は女優だと信じたいという役を演じたい。夢で終わりそうですけど。

女役を美しく見せるのが男役冥利

N 鳳さんをみていると人を押し退けてまで、そこに出ていくことはないですね。

O どっちかという私は人がいっぱい出てきた方がうれしい。今回も三田(和代)さんが素敵に見えてほしい。だから一生懸命彼女がきれいに見えるようにしています。

N 男役が娘役の人を扱う手つきって鳳さんを見ているとすごく分かるんだよね。うまいし、やさしいし、やっぱりいいなあ。

O 女役の人が素敵に見えたらファンの人たちはみんな気持ちが女役になるんです。女役とキスシーンがあったら「悔しい!」と思う。それくらい自分が「鳳さんに大切にされている! 私は」とみんな幸せになる。だから女役をものすごく大切にします。

N 女扱いがうまいですね。僕は「鳳さんを大事にしなくては」と思った(客席から拍手)。それは人間の力と演技力なんだなあと思った。外国のいい女優たちと比べても、互角なんだよね。しゃしゃり出ない、この大らかな不思議な人間性、正しい年の老い方がいい。

O うれしいなあ。いつもお稽古が終わると制作の女の子が「制作が泣いちゃいけないんですけど!」とおおい泣いているんです。私も実は泣きそうなんです。

N そういう舞台になっています。これから僕は鳳さんの爺やになるつもりです。

O (笑い) ありがとうございます。



Profile

鳳蘭 おおとりらん
兵庫県神戸市生まれ。中華同文学校卒業後、宝塚音楽学校に入り1964年4月『花のふるさと物語』で宝塚歌劇団の初舞台を踏む。入団当時から生来のエキゾチックな美貌と容姿で一際目立つ存在であった。以来、星組の男役トップスターとして10年務め、1979年8月に惜しまれながらも退団。その後、ミュージカルを中心に数多くの舞台作品に出演、日本のミュージカル界を代表するエンターティナーである。今年5月には、蜷川幸雄演出の舞台『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』で主演を務めた。